

去寅七月、咬嚼吧都督使船長崎入津の節、長崎在留の甲比丹、建白の内、日本政府御注文帆前船、及蒸氣船、阿蘭陀國王、頻に勉勵仕候へども、未だ手に入不申候、殊に歐羅巴内、強國四箇國、戰爭有之、自國は其患無之とも、右様の節は、軍船武器等、他國へ出事、禁止有之候故、阿蘭陀王心配仕り居候、併日本の爲め、國王勞心罷在候間、其内精々仕り、手に入れ次第、急速咬嚼吧の方へ相廻し、夫より早々長崎表へ差越候様可仕と有之候へば、右御注文の蒸氣船の着なるべし、夫を阿蘭陀獻貢と名付たる歟、

〔嘉永明治年間録〕安政三年七月十七日、昇平丸君澤形、兩船乘試、

阿部伊勢守殿三番頭へ渡し、大船追々御製造被仰付候に付ては、組々御番衆等運用并船中調練も可被仰付候得ども、差向習練のため、昇平丸御船君澤形御船の内、何れも順番を以拜借被仰付候間、其方共組の者共乗組、近海乘試運用、大砲調練、且航海の術迄も、習練致し候様可被致候、尤天文方並手附の者も、其時々乗組、測量其外をも相試み候筈に付、委細は御船製造掛、天文方へ可被申談候、君澤形御船乗組人數、番頭組頭、御番衆、世話役、御徒目付、御小人目付、天文方三人、與力同心、其外侍小者、大船乘試み、月番順、八月加納駿河守、九月九鬼式部少輔、十月本多肥後守、右は大御番組、此外御書院番、御小性組、月割、爰に略す、

〔嘉永明治年間録〕十六慶應三年九月、希望ノ者ハ、蒸氣飛脚船ヲ以テ、大坂へ往返スベキノ達、

美濃守殿渡書付、此度廻船御用達等引受にて、蒸氣飛脚船頭役、當月中より大坂表へ致往返候間、御用旅行物は勿論、諸家家來、百姓、町人、婦女等に至迄、右飛脚船にて致往返ものは、勝手次第、廻船會社へ申込、相當の入用差出、乘込候様可致候、○下

〔海軍歴史〕二十四西曆千八百六十三年十一月、横濱請取、價拾四萬五千弗

原名ヤンシー

英吉利國より買上、於横濱請取、